

平成 29 年度の優先課題

優先課題	評価結果	主な取り組み
① 地域包括ケアシステムにおける看護基礎教育の見直し	<p>●地域包括ケアシステムの整備、厚労省のカリキュラム改正予定も視野に入れ準備を行った。</p> <p>地域の実情把握及び地域を意識した教育が（地域貢献も含め）重要となるため、カリキュラム検討に加え、全教員が施設の調査や研修を計画実施した。</p> <p>地域包括ケアシステムの【医療】【介護】【生活支援・介護予防】の施設のうち実習施設として使用していない8施設(入退院支援センター・あったかふれあいセンター・小規模多機能施設など)の研修をまだ一部ではあるが実施した。</p> <p>併せて上記に関連する県外でおこなわれる会議や研修に参加した。</p> <p>平成 32 年施行でカリキュラム改正へ向け動き始めたという情報が得られた。</p> <p>このことを踏まえ次年度にも引き継いで計画しており、今後求められる教育内容の精選や新たな実習施設選定につなげていく。</p>	<p>●2025 年問題に向け、地域包括ケアシステムの整備が進められる中、看護師に求められる役割は拡大しており、基礎教育においてもその役割を担う人材育成が必要と言える。社会の変化に対応できるカリキュラム編成のための準備を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各々の研修計画を確実に実施し、知識を共有、蓄積し地域包括ケアシステムを踏まえたカリキュラム改正に備える。 ・高知県看護教員継続研修事業に対しカリキュラム改正関係の研修講師を要望 ・カリキュラム検討委員会の定期開催。 ・進捗状況は運営委員会に諮る。
② 高知県に貢献する学生の確保	<p>●教育理念は地域に貢献できる看護師の育成であり、県立の看護師養成所として特に県内定着を推進していくことが求められている。</p> <p>このことから県内定着率 80%を目標に低学年から進路指導を徹底し、県奨学金の効果的な活用などもあわせ説明していった。</p> <p>県内定着率は平成 27 年度 78.6% 平成 28 年度 80.0%で推移している。</p> <p>平成 28 年度の内訳として中央医療圏 26.7% 幡多医療圏 53.6%,高幡医療圏 16.7%,安芸医療圏 0.3%であった。中央医療圏以外の 3 医療圏で 70%程度の就職率を占め一定の効果が見られている。</p> <p>●地域に貢献できる看護師育成のためには、多くの受験生確保が先決となる。</p> <p>18 歳人口減少により減少傾向であった受験者数は、過去 3 年間では横ばい状態でますますの受験者の確保ができている。</p> <p>●広報活動として、学校のホームページ、県の広報誌（SUNSUN高知）の掲載、業者や高</p>	<p>【県内定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県内に就職した卒業生を招いての在校生と語る会の特別教育活動の実施 ●高知県看護師等養成奨学金及び高知県助産師緊急確保対策奨学金の説明の強化及び医療政策課との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・事務担当者による説明とフォロー ・医療政策課が行う奨学生へのヒアリングへの協力 ・県奨学生の進路変更時の指導と情報提供 ●併せて高知県中山間地域等訪問看護師育成講座の制度説明を行い新人訪問看護師の育成につなげる。 ●進路・就職指導に関する教員の情報共有と徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・学年担任による 1 年の低学年からの進路・就職指導を徹底し県内就職の推奨を行う。 ・教務主任及び 3 学年担当教員との協働による県奨学金対象者面接や就職指導を通して県内就職の推奨を行う。 ●県の看護学生就職支援事業への協力 <p>【学生確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当校の魅力を PR <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校訪問及び各種進路相談会の参加 ・オープンキャンパスの充実:3 回(土日祝日開催)、体験型学校生活・実習病院見学、相談体制の充実、各種奨学金制度説明 ・ホームページ 当校の看護師国家試験合格率推移の掲載

	<p>知県下の県立高等学校からの要請による進路ガイダンスに参加し、学校案内・募集要項についての説明を行っている。募集要項は高知県下の全高等学校はもちろん愛媛県下(主に南予地方)の高等学校にも配布している。更には、看護協会、職業安定所、県下の保健所や県庁けんみん室、入試センターにも配布している。</p> <p>オープンキャンパスは実習室の耐震工事により2回のみで開催となったが進路ガイダンス時高校生に担当教員が説明したり、ホームページに掲載し積極的なPRをした結果例年並みの来校者となり上記に記載した受験者の確保につながっていると評価できる。</p>	<p>入学後の諸経費、在学情報、卒後の進学・就職先、教育給付金等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当校の入学試験問題(過去3年間分)の開示(無料配布) ・その他の広報活動 <p>県下の全高等学校への募集要項・学校案内の配布 医療・福祉施設への入試募集要項・学校案内の配布 幡多地域の高等学校へのオープンキャンパスポスター配布 量販店のオープンキャンパスポスター掲示</p> <p>●現役生、社会人経験者それぞれに応じた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人受験生への配慮として社会人入学試験の土曜日の実施 ・入学後医療に関する専門学習や医療現場での実習など、これまでの高等学校学習との違いに戸惑うことがないよう現役生に応じた学習への適応支援を計画を行う。 <p>社会人経験者については社会経験を強みにできるよう、学ぶ姿勢の再獲得や社会生活との両立に向け支援を計画的におこなう。これらを通して学生の一人ひとりにあった教育指導を行う。</p>
<p>③防災教育の充実並びに学校防災マニュアルの整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●熊本地震を体験した養成所の教育責任者による研修を受け、休校判断、様々な状況下に応じた対応手順、学校早期再開への対応、学生ボランティア規定などの具体的な部分の作成にとりも参考になった。これにより学校防災マニュアルの大枠が完成した。 ●関係機関との調整 <ul style="list-style-type: none"> ・幡多地域災害委員会との教職員の動員体制の調整 体育館避難所(宿毛市)との定期調整会議の実施 特別支援学校バス緊急一時避難に関する調整と避難訓練の実施 ●学生の防災教育については、3学年の特別教育活動に計画し実施。 <ol style="list-style-type: none"> 1年 <ul style="list-style-type: none"> ・県防災マップでの基礎学習 ・通学路避難マップ ・幡多けんみん病院を中心とした大規模災害訓練参加 ・高知防災そなえちよき隊による南海トラフ地震に備える講話 ・genkidayo システムによる安否確認訓練 2年:災害時対応カリキュラム参加 3年:幡多けんみん病院を中心とした大規模災害訓練参加 全学年:消火・非難訓練 <p>様々な防災教育により学生の防災意識は高められたと評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学校防災マニュアル整備は、素案をもとに、細かな対応手順等を整備していく。 <p>また、校舎2階部分を使用する幡多けんみん病院災害委員会との調整を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●校内点検及び発電機等のライフラインの整備に取り組む。 ●新入生防災グッズの購入(食料・水含む)及び左記の防災教育を実施していく。